

事例5 曲想と音楽の構造などの理解（アナリーゼ的要素）を合奏に生かしていく事例

○学年 第5学年

○領域・分野・題材名 A表現 (2) 器楽「思いを表現に生かそう」

○事例のポイント

- ①児童の思考・判断のよりどころとなっている音楽を形づくっている要素は、【音色・音の重なり】である。
- ②どのように表現するかについて思いや意図を表すための教材・教具の視覚化をする。
- ③児童が学校内外における音楽活動とのつながりを意識できるようにし、自分たちの生活や社会の音や音楽との関わりを交えた表現の工夫を例示する。
- ④ICT端末を活用した撮影動画の活用方法（客観的に曲の特徴をとらえた表現の工夫等）を例示する。

1 題材名 思いを表現に生かそう（5時間扱い）

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級は日常的に歌ったり演奏したりする活動に意欲的で楽しんでいる児童が多い。5年生になり、合唱やリコーダーアンサンブル等の活動を通して、声や音の重なりを感じ取りながら演奏してきた。しかし、音色の美しさや曲想の変化の感じ取り方には個人差があり、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して演奏することに対して課題がある。児童の意識調査をしたところ、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすることができる児童が多いことが分かった一方で、思いや意図をもって音楽表現をするには至っておらず、自分の演奏に自信をもてない児童もいることが分かった。

(2) 題材について

本題材では、これまでのまとめとして、曲や歌詞の表すイメージと音楽の構造との関わりを理解し、今までに学習してきたことを生かして充実した表現や鑑賞の学習に結びつけていくことができるようにすることをねらいとしている。児童がこれまで身に付けてきた知識及び技能を得たり生かしたりしながら、楽器の音色や重なり合う響き、曲の山、旋律や歌詞の内容などと曲想との関わりを考えることで、豊かな表現に結びつけることができるようにする。第1時で学習したことを生かして、第2時でどう表現するか思いや意図を具体的にもちながら、曲の特徴にふさわしい表現をするために必要な表現の技能を身に付ける。この時期の特徴である6年生を送り出す5年生という立場ならではの思いを生かし、ともに音楽をつくり上げていく喜びを味わわせ、表現の質を高めていきたい。また、心を込めて演奏する活動を通して、学校内外の様々な音楽や音楽活動に主体的に関わっていく態度の育成へとつなげていきたい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、重なり合う響きに着目し、学習指導要領のA表現(2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(イ)(ウ)、B鑑賞ア、イを指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏したりする技能を身に付ける。<知識及び技能>
- (2) 音色、音の重なり、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の演奏のよさを見だし曲全体を味わって聴くとともに、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。<思考力、判断力、表現力等>
- (3) 曲想と音楽の構造との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、楽器の音色や音の重なり親しむ。<学びに向かう力、人間性等>


4 教材について

- (1)「威風堂々 第1番」(鑑賞) エルガー 作曲
 (2)「威風堂々 第1番」(器楽) エルガー 作曲 長谷部匡俊 編曲

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽ア 器楽表現についての知識技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。	
	器楽イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。 (イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解すること。 器楽ウ(イ) 音色や響きに気をつけて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けること。 (ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き伴奏を聴き、音を合わせて演奏する技能を身に付けること。	
〔共通事項〕	ア	音色・音の重なり
	イ	変化
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の変化や音の重なりを感じ取りながら聴く。 ・曲想の変化を感じながら旋律を演奏する。 ・和音の変化を感じ取り表現を工夫しながら演奏する。 	

6 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 知 曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞) ② 知 曲想と音楽の構造との関わりや、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解している。(器楽) ③ 技 思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の楽器の音や全体の響きを聴き、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)	思 ①音色、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の演奏のよさを見だし味わって聴いている。(鑑賞) 思 ②音の重なり、和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)	態 曲想と音楽の構造との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(器楽・鑑賞)
1時	① 知 観察・発言・記述	① 観察・記述	
2時	↓	↓	
3時	② 知 観察・発言・記述		
4時	↓	② 発言・聴取・記述 (器楽)	
5時	③ 技 観察・発言・記述		

評価の例

※本事例の主な領域である器楽のみ抜粋

なお、評価例に関する具体的な記述例等を、「指導と評価の計画」の中に記載してあります。

評価規準	「満足できる」状況(B)と判断する見取りのポイント	「十分満足できる」状況(A)と判断した例
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の活動で聴き取り、感じ取ったことをもとに、曲のイメージをつかみ、どのような演奏をしたいのかという思いや意図を、楽譜やワークシートに示している。 ◇児童の記述例・工夫例 ②	<ul style="list-style-type: none"> 音色、音の重なりをよりどころとし、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、根拠を踏まえて自分の言葉で表したり、楽譜に示したり、表現効果を高めるための方法を積極的に試したりして、思いや意図を膨らませ、ワークシートに示している。
知識	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造との関わりに気付き、楽曲を特徴づけているよさや面白さなどと関わらせている。 ◇児童の記述例 ①	<ul style="list-style-type: none"> 感じ取った曲想を基にしながら、音楽の構造との関わりを理解し、その関連を明確にした発言やワークシートへの記載が見られる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図に合った表現をするために、楽器の音や全体の響きを聴き、音を合わせて演奏している。 ◇児童の工夫例 ③	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図に合った表現をするために、何を工夫すべきかを音楽の要素と関わらせながら考え、楽器の音色や全体の響きを聴いて演奏している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に関心をもち、他者の思いや考えを取り入れながら、粘り強く取り組んでいる。 他者からの助言を参考にしたり、グループでの話し合いを参考に自分の演奏を振り返ったりして、自らの学習を調整しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に高い興味・関心をもち、他者と関わりながら粘り強く取り組んでいる。 グループの音楽の思いや意図を明確にししながら、グループ全体の学習を調整しようとしている。

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
(P132 評価資料を参照)

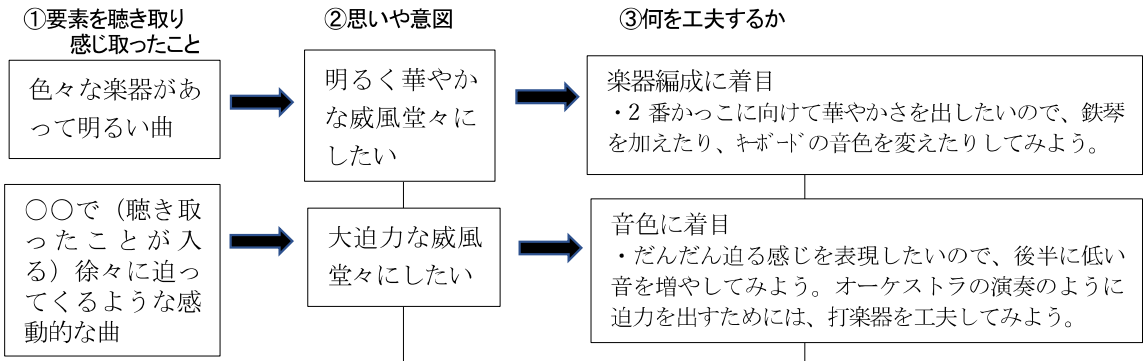
7 指導と評価の計画 (全5時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T:具体的な発問	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
1	<p>1次◆オーケストラの音楽の構造と曲想の変化を感じ取る。</p> <p>○「威風堂々」の音楽の構造と曲想の変化を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「威風堂々」を聴き、アとイの2つの旋律の違いを感じ取る。 ・「威風堂々」の特徴をつかむ。 <p>T:楽器の音色や音の重なりの違いに気を付けながら、この曲の特徴を感じ取りましょう。</p>	<p>○2つの旋律の曲想を感じ取らせるとともに、オーケストラの響きの特徴に気付くようにする。</p> <p>○児童の発言から「聴き取ったこと」と「感じたこと」を区別することで、曲想の特色を捉えやすくする。</p> <p>○曲想の違いを感じ取らせるため、適宜、体を動かしたり、指揮をしたりする活動を取り入れる。</p> <p>○適宜、主旋律を階名唱したりリコーダーで演奏したりしながら、楽曲への理解を深める。</p>	<p>事例のポイント</p> <p>◎留意事項</p> <p>ポイント①</p> <p>◎全曲を聴く中で場面ごとに「感じ取ったこと」「聴き取ったこと」を整理して曲の仕組みをつかむことで、【音色・音の重なり】を基に思考判断できるようにする。</p>
<p>【児童の記述例】</p> <p>※児童が感じ取った特徴と、音色や楽器の重なり方、曲全体の構成などの特徴に目を向けるようにする。 (指導のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の旋律の方が華やかな感じがしたのは、<u>高い音の楽器の音色が増えた</u>から。 ・同じ旋律でも<u>違う楽器で演奏したら、明るく感じる</u>。 ・演奏する楽器が増えて音が重なると、音が<u>だんだん大きくなって盛り上がっていく感じがした</u>。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>[共通事項]と関連させ、聴き取ったこと ⇔ 感じ取った曲想 関連</p> <p>◇この記述・発言にあるものが、今後の器楽の活動のよりどころとなる</p> </div>			
	<p>○本題材の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、「威風堂々」をグループや学級で工夫して演奏し、最終的には、「クラスの威風堂々」をつくりあげていくことを知る。 	<p>○児童の記述内容を音で確認したり、演奏を比較したりする。</p> <p>○本時の学習をもとにし、思いや意図が聴き手に伝わるように演奏したいという意欲をもたせる。</p>	

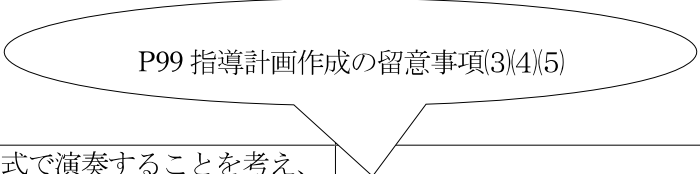
2 ・ 3	<p>○曲の冒頭と最後の部分・イの1度目と2度目の部分の演奏を聴き比べ、曲の特色を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イの旋律を聴き比べ、違いを感じ取る。 <p>T: 楽器の音色や音の重なりに気を付けながら旋律イを聴き比べ、曲想の違いを感じ取ろう。</p>	<p>○曲の冒頭と最後の部分・イの1度目と2度目の部分を楽器の音色や音の重なりに着目し、演奏を聴き比べることで、どんな演奏にしたいかという思いをもつことができるようにする。</p> <p>○オーケストラのスコア譜でイの旋律の1回目と2回目を比較し、楽器の種類や数に気付くようにすることで、曲のよさについて、イメージを広げるようにする。</p>	<p>ポイント①・②</p> <p>◎主旋律とオーケストラのスコア譜をみて、「音の重なり」や速度や発想等の記号、楽器の数等について、視覚的にとらえさせることで、よさにつなげていくようにする。</p>
	<p>【児童の記述例】①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな楽器の音色が重なると、華やかな感じになる。 ・低い音の楽器や打楽器の音が重なると、堂々とした感じがする。 ・楽器の組み合わせが変わると、曲の盛り上がりを感じられ、曲の雰囲気が変わる。 		
<p>○曲想を生かした演奏を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②～⑤パートを演奏し、それ俺のパートの役割を考える。 ・階名で歌い、運指を確認する。 <p>T: 「威風堂々」は、どんな曲ですか。そのよさを生かして、どんな「威風堂々」にしたいか、グループで考えましょう。</p>	<p>○主旋律以外は和音で同じリズムになっていることを確認し和音だけで演奏することで、役割に気付かせるようにする。</p> <p>○イを中心に、主旋律のみと合奏、オーケストラの演奏とを聴き比べることでイメージをふくらませ、「楽器の音色」や「音の重なり」等の曲想の違いに気付かせ、表現の工夫につなげられるようにする。</p>	<p>ポイント②</p> <p>◎(1)主な旋律(2)主な旋律を飾るパート(3)響きを支える低音という役割をおさえ自分の思いを表現にするためにどうするかを考えさせる。</p>	
<p>【児童の記述例】②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな楽器の音色が重なって華やかな曲なので、楽器の組み合わせを工夫して、「明るく華やかな威風堂々」にしたい。 ・低い音の楽器や打楽器が重なると迫力があつたので、盛り上がり考えた「大迫力な威風堂々」を演奏したい。 		<p>ポイント③</p> <p>◎どんな「威風堂々」にしたいか考えさせる。そこから盛り上がる部分はどこか等イメージをふくらませる。</p> <p>◎第1時の学習を想起し、第一印象を想起することで、イメージを捉えやすくする。</p>	
	<p>○曲のイメージをグループで確認し、工夫する観点について考えることで、楽器選別に生かすことができるようにする。</p> <p>○各楽器の特徴を提示することで、楽器の音量や音色、担当する人数等に見通しを</p>	<p>「思いや意図」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堂々と落ち着いた威風堂々 ・明るく華やかな威風堂々 ・大迫力な威風堂々 <p>ポイント④</p> <p>◎Webプログラミングでのアンケートフォーム作成ツールを使用することで、児童の思いをくみ取</p>	

	<p style="text-align: center;">P99 指導計画作成の留意事項(2)</p>	<p>もって、楽器を選ぶことができるようにする。</p>	<p>り、音楽室の状況に応じてグループ数を決めるようにする。</p> <p>◎各楽器の特徴を提示し、特色を生かす楽器選びについて、深く考えることができるようにする。</p>
<p>2次◆音色、音の重なりを感じ取り、どのように歌ったり、演奏したりするかについて、思いや意図をもって演奏する。</p>	<p>○聴いている人に「威風堂々」のよさが伝わる表現の工夫を考えて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えたパートの特徴に合った楽器で練習する。 <p>T:どうすれば「威風堂々」のよさが伝わるとおもいますか？前の時間に考えた工夫することを整理して、グループ毎に音で確かめてみましょう。</p>	<p>○前時の学習を振り返り、楽器の特徴を提示するなどして、工夫する観点を明確にし、各グループが見通しをもって思いや意図に合った表現の工夫につなげられるようにする。を確認し、工夫する観点が明確になるようにする。</p>	<p>ポイント②</p> <p>◎各楽器の特徴を提示し、児童が感じ取った曲想を基にしながら、各パートの役割や曲の雰囲気等の特徴に注目できるようにする。</p> <p>◎主旋律と副次的な旋律の響きの違いを、実際に音で比較し確かめることでふさわしい表現を工夫することができるようにする。</p>
<p>4 本 時</p>	<p>・録画を振り返り、楽器の配置、分担、楽器の音色等を調整して演奏する。</p> <p>T:他のグループの録画をみて、伝わった点やよりよくなる工夫を伝え、よりよい表現になるように考え、演奏を録画しましょう。</p>	<p>○考えた工夫は必ず演奏し、学習者用端末で録画すること、振り返りに活用できるようにする。</p> <p>○録画する際、パートの音量のバランスを考えた楽器配置をすることで、主旋律が引き立つ強さで演奏できるようにする。</p>	<p>ポイント⑤</p> <p>◎録画を聴き合って、工夫が演奏に表れているかを録音で確かめることで、自分たちの演奏を振り返って練習に生かすことができるようにする。</p> <p style="text-align: center;">P99 指導計画作成の留意事項(2)</p>

【児童の工夫例】② ※前時の学習から、「聴き取り感じ取ったこと」をもとに、どのように演奏するか「思いや意図」もち、そのために「何を工夫するか」を児童に捉えさせる展開を大事にする。



	<p>【児童の工夫例】③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の楽器が聴こえにくいから、立つ場所を手前にして、他のパートの音を控えめにした方がいいと思う。 ・楽器の重なりを工夫して、最後に向けて音が多くなると盛り上がった感じに。 ・木琴や鉄琴のマレットを変えると音色が変わって雰囲気違って聴こえる。 <p>※(資料参照)児童の楽譜</p>	<p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の楽譜 (資料参照) ・教師の楽譜 (資料参照) <p>ポイント④</p> <p>◎同時情報共有アプリを活用し、感じたことの意見を共有する。</p>
<p>○卒業式で演奏することを考え、思いや意図が聴いている人に伝わるように「クラスの威風堂々」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の録画を鑑賞し、どんな演奏にしたいか考える。 ・表現の工夫を確認しながら演奏する。 <p>T:それぞれのグループの演奏のよいところを発表しましょう。</p>	<p>○パートの特徴やグループの思いを表現の工夫に生かしている点を価値付け、全体に共有することで、表現のイメージを膨らませるようにする。</p> <p>○卒業式で演奏することを伝え、授業での学習活動と行事での音楽活動とのつながりを意識させる。</p> <p>○それぞれのグループの思いが表れた工夫について価値付け、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて、思いや意図をもつことができるようにする。</p>	<p>ポイント③・⑤</p> <p>◎前時に録画した ICT 端末での全グループの演奏を振り返ることで、それぞれのよさを確認することができるとともに、「クラスの威風堂々」を完成させたいという思いがもてるようにする。</p>
<p>5</p>	<p>【児童の工夫例】④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目に入るときの、音の鳴り方や演奏の仕方が、迫ってくる感じで格好よかった。 ・「大迫力な威風堂々」グループの打楽器が盛り上がる場所だけ入るところがよかった。 ・「堂々と落ち着いた威風堂々」のグループの楽器の組み合わせ方の工夫が聴き手に伝わり感動した。 ・「明るく華やかな威風堂々」のグループの主旋律にグロッケンが入っているところが華やかで、私たちのクラスの雰囲気に合っている感じがした。 	
<p>T:「威風堂々」を卒業式で演奏する学校がたくさんあるそうです。なぜ、この曲を卒業式で演奏するのか、また、どのような演奏をしたいと思いますか。</p>	<p>○教師が児童の考えを集約し、拡大楽譜に書き込むことで、全体のイメージをまとめていくようにする。</p>	
	<p>【児童の発言例】④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業式で演奏するということを知って、卒業式のおごそかな雰囲気と曲の雰囲気がとても合っていると思った。 ・卒業式で演奏するイメージで曲の工夫を考えたら、ただ盛り上がるとかではなくて、壮大なイメージをもって一つの楽器の音や音の重なりを聴きながら演奏したいと思った。 ・卒業式で演奏することを考えると、おごそかで壮大な雰囲気を表現したいと思った。目的をもって場面に合った演奏することで、雰囲気を変えることができるので、音楽の力はすごいと思った。 ・今までは、自分が演奏したいことを工夫してきかたが、場面に応じて演奏することで人を感動させることもできるとわかったので、今後も生かしていきたい。 	



		<p>○学校行事と関連させる際、今までの音楽の授業での学びに対する新たな価値付けや、児童に新たな気付きをもたせることが重要となる。そのため、この曲を卒業式で演奏する意味を考えさせ、そこから生まれる思いや意図をもたせることで、児童と音楽との関係をさらに深めていけるようにする。</p>	<p>ポイント③</p> <p>◎今回の学習で工夫した演奏を学校内の音楽活動で披露することで、音楽科の学習内容と学校内外の音楽活動とのつながりを意識できるようにする。</p> <p>◎演奏の響きを聴き取り、パートの役割を理解して演奏できるようにすることで、音を合わせて演奏する楽しさや喜びが味わえるようにする。</p>
--	--	---	--

8 本時の学習指導について（4／5時）

(1) 目標

- ・ 楽器の音色、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

<思考力、判断力、表現力等>

(2) 展開

○学習内容 ・ 学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○旋律の響きに慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「威風堂々」の主旋律や副次的な旋律を演奏する。 <p>○前時の学習を振り返り、本時の目標を捉える。</p>	<p>○常時活動では、主旋律と副次的な旋律の響きに着目し振り返り、本活動につなげるようにする。</p> <p>○息の合わせ方や姿勢について、全体で確認することで、グループでの活動に生かすようにする。</p>
<p>きいている人に「威風堂々」のよさが伝わる表現の工夫を考えよう。</p>	
<p>○聴いている人に楽曲のよさが伝わる表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ毎に表現を工夫する。 <div data-bbox="256 1406 700 1556" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「思いや意図」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大迫力な「威風堂々」 ・ 堂々と落ち着いた「威風堂々」 ・ 明るく華やかな「威風堂々」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器の特徴を参考にしながら、楽器の音色、音の重なり方を意識して演奏を工夫する。 ・ グループごとに演奏したものを児童用 I C T 端末に録画し、調整して工夫に生かす。 	<p>○前時の学習を振り返らせ、「聴き取り感じ取ったこと」をもとに、思いや意図に合った表現につなげるために「何を工夫する」のかを整理させることで、本時の活動に見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>○楽器の特徴を示すことで、主旋律と他の旋律との響き、音の重なり方について、児童が感じ取った曲想を基にしがら、曲の特徴にふさわしい表現が工夫できるようにする。</p> <p>○気付いたことは必ず音で確かめることを確認し、楽器を変えたり、表現の工夫を変えたりして試しながら考えることができるようにする。</p> <p>○児童用 I C T 端末に録画された 1 グループの演奏をみて、感じたことを付箋紙等へ書き、交流する。</p>

- ・隣のグループの録画した演奏を鑑賞して、気付いたことやよりよくなる点について伝え合う。
 - ・意見交換や自分たちの反省を生かし、よりよい演奏になるよう話し合い、音で確かめたことを録画する。
- 本時のまとめと振り返りをする。
- ・演奏に生かせることについて、気付いたことや感じたことを発表する。
 - ・振り返り欄に本時の振り返りを記入する。
- 相手のよかったところ・よりよくなるポイントをアドバイスしたり、自分たちのグループの目指す表現について意見をもらったりすることで、どのような表現がよいのか再度考えることができるようにする。
- ☆思②（観察・聴取・記述）
- 「楽器の音色」や「音の重なり」等の特徴について、気付いたことや感じたことを整理して板書する。
 - ワークシートのみで評価することなく、発言や観察等、多様な場面で評価していく。
 - 第一印象の感じた点と最後の演奏について等本時の学びで自分がどのように変容したかを記述し、次の学習に生かせるようにする。

発展として…

P99 指導計画作成の留意事項(4)

ポイント④

発展として、他校や他学年に Google meet などを使って交流したり、中学校の合唱コンクールなどで交流したりする活動が考えられる。他学年や同地区の中学生等からアドバイスをもらったり、互いの演奏を鑑賞し合ったりすることで、自分の考えや思いのイメージを深め、今後の演奏の工夫に生かすことができる。

また、紙面の都合上割愛したが、この題材の中で、器楽や鑑賞で得た知識や技能を得たり生かしたりしながら、卒業式等の曲の特徴にふさわしい歌唱表現を工夫できるように題材構想を立てた。

9 板書計画

めあて きいている人に「威風堂々」のよさを伝えるにはどうしたらよいか考えよう。

曲のよさを伝えるには…

- ・大迫力な
- ・堂々と落ち着いた
- ・明るく華やかな

威風堂々

◇こんなよさ（大迫力・堂々・華やか）を伝えたいから

- ・主旋律の楽器は〇〇。その他〇〇や〇〇も入れたい。
- ・迫力を出したいから、同じ旋律を違う楽器同士も組み合わせたい。

※音量や響きのバランスも聴いて確かめる
→パート人数・楽器の数も考えてみよう

今日メニュー

- ①工夫をまとめる
- ②音で確かめる
- ③互いに見合う **今ここ!**
- ④工夫を調整する。
- ⑤ふりかえりをする。

①			
②	楽器名	担当する人	んだ理由 楽器を選
③			
④			
⑤			

ふりかえり

- 最後に向けて強くすると盛り上がった感じになった。
- 楽器の数を増やしたら、力強く迫力がでた。
- 音が重なると、気持ちも高まって楽しかった。

がくふに書くときには…（最初の文字を書きましょう）

リコーダー	鍵盤ハーモニカ	キーボード	木琴	鉄琴	ピアノ	小太鼓	大太鼓	タンリン	ウイバカ
リ	け	キ	木	鉄	ピ	小	大	タ	ウ

思いを表現に生かそう②

5年 組 番 (名前)

自分の考える威風堂々のよさとは？
 打楽器のクレッシェンドがかっこよくて、徐々に迫ってくるような感動的な曲

どんな「威風堂々」にしたい？
 グループの考えを書こう

大迫力な 威風堂々

「威風堂々」のよさを伝えるためにはどんな工夫ができるかな？

学習の進め方

- 各自の意見を出し合う。
- ①～⑤・⑥の楽器をえらぶ。

何度も音を出しながらためして、ベストをえらぼう！

- 楽器の担当をきめる。
※楽器を選んだ理由が大切！
- ICT 端末に録画する。
- 互いに見合う。 **アドバイスタイム**
- 工夫を調整する。 → **録画**
- 学習を振り返る。

使ってみたい主な旋律の楽器

その他のパートの楽器

演奏や重ね方等の工夫
 (例) ～～のために ○○な部分を ～～する。

楽譜に書こう

パートと楽器の名前	担当する人	その楽器を選んだ理由
①		
②		
③		

今日の学習を振り返りましょう。

児童用
(A~Jの10人グループ)

大迫力な 威風堂々

工夫のポイント

- 旋律にリコーダーとけんばちを入れた。
- 旋律の楽器をだんだん増やした。
- 打楽器を3種類 組み合わせた。

エルガー／長谷部匡俊編曲

1回目は、静けさの中という感じの mp
♩ = 80 2回目は、少しずつ 目覚める感じの mf

① A ①
② B ②
③ C ③
④ D ④
⑤ E ⑤
⑥ F ⑥
⑦ G ⑦
⑧ H ⑧
⑨ I ⑨
⑩ J ⑩

まだまだここは、おさえておく → 1. V

mf 1回目 mp 2回目 mf というイメージ

追力がでるようになるように

追力を出すために徐々に演奏 → 階段をのぼるように → 一段ずつ出すイメージ → ここから 旋律に鉄琴も入る

① ま ま

新しい世界にかわった感じの f

② のイメージ

ていねいに

① ② ま ま

③ ④ ま ま

⑤ ⑥ ま ま

⑦ ⑧ ま ま

⑨ ⑩ ま ま

最後まで、たっぴりと →

① p ② p

③ p ④ p

⑤ p ⑥ p

⑦ p ⑧ p

⑨ p ⑩ p

追力はあるが 粗にならない ようにする。

大迫力な 威風堂々

大迫力な様子を録音写真等でイメージさせ、グループ全体で共有させる。

- ・人数調整の仕方、配置、並び方
- ・徐々に人が増える際の拍の合わせ方
- ・ダイナミックな音の出し方

エルガー／長谷部匡俊編曲

強弱を人数で補う
点を称賛し、全体に共有

↓

♩ = 80

1回目とはちがう。2回目は、音の立ち上がり(アタック)を明確にさせる(強い思いをもたせる)

強弱記号のイメージを言語化していることを
使えば、全体に共有する。

なぜついているのか。
大迫力につながる音の出方を考えさせる

◎ 2回目の和音の響き、
音量等のバランスを
チェックする。

1.

迫力を出すために、
大きく変化させたい
2拍目から強弱を
つける。

2回目つながらず
急速に

17 2.

アドバイス
ポイント

迫力を出すには、後ろの方で音量を変化すると
効果的。階段は、継(あがる)より積(おさめる)の時を
徐上には必ずイメージでrit.

25

イメージ図は全リード共有

・体重を十分にかけて音を出す。1人だけ
突出しないよう、録画をみて調整させる。
・速度は、リーダーを決め、みんなが合わせる
ようにさせる。

1回目の並び方

修正

ABCDEF GHIJ
○ 顔が互いに見える
▲ 打楽器が沈んで
主旋律が聞こえない

修正後 録画し確認させる。
(主旋律を引き立てることが
優先ということを念頭に)

・切るタイミング
音量
を、そろえるよう指導
する。

児童用

(A~Jの10人グループ)

堂々と落ち着いた 威風堂々

工夫のポイント

- 下4パートの低い音を電子ピアノにした。
- 大太鼓を入れた。
(最後の終曲を大太鼓に合わせて
たどって演奏したい。)

堂々とさえるゆたゆたとした
テンポを保つために
金銀で、プレスをする。

エルガー／長谷部匡俊編曲

① ABC
② D(2回)
③ E(2回)
④ F
⑤ G
⑥ H
⑦ I
⑧ J

① (1回目) mp
② (2回目) mf

♩ = 80

だんたん力あがる
ようにしたい。

堂々とした音にするために、長さ
を長く、弾き方をそろえる。(重たい)

落ち着いた感じがほしい、なめらかに……

9

pp

1. V

落ちついてさえるが、
ゆくりとVかける。

大きな山のよう

17

2. V

fがざつにならないように。
ゆるやかに、おこえてくる。

f

25

V

ゆたゆたとした感じにするため
音を切るタイミングをそろえる。

ゆたゆたとしたように

→ 落ちついて →

落ち着いた演奏にするために
テンポを最後まで同じにする。

堂々と落ち着いた 威風堂々

児童の楽譜からの分析

- ・低音楽器を充実させる。
- ・2回目の音量・楽器・人数
- ・下4パートの音値(重め、テマート)

エルガー／長谷部匡俊編曲

修正を消しゴムでなく、線でのこしている点を称賛。学びの軌跡を残すことを奨励する。

① $\text{♩} = 80$ (1回目) mp というイメージ
 全員で息を吸うタイミングを合わせる。1-4パートがリズムに合わせて、2-6パートも息を吸う

ABC
D E(22~)

F { ②
③

G ④

H ⑤

I ⑥

J

吹き方をそろえる。心も体も重いイメージを引き出すような音

とにか⑤を目立たせるように演奏させる。

1つしはせめに $\text{♩} = 80$ につなげる。

音が出た音に圧力をかけていくイメージで出させる。

1.

【拍目をそろえる】

最後まで(22)の1つ

17 2.

最終目標は、22小節の(3)徐々にさせる。

テンポを一気に

①の音高に合わせて音量を調節させる。

全員でそろえる

音量のイメージを一緒にして、1人だけ突出しないように

②~⑥パートの人も、できる限り①パートの旋律をバッチリ歌う。

25

スッと消えていくイメージをもたせる。

切るタイミングが合わない時は、例えば⑤に合わせてようアドバイスする。

児童用
(A~Jの10人グループ)

明るく華やかな 威風堂々

工夫のポイント

- 22小節目から グロッケンを入れた。
- 下4パートに、木琴や電子ピアノを入れた。
- 「皮」と「金属」の打楽器を組み合わせた。

エルガー／長谷部匡俊編曲

♩ = 80

パッと明るいイメージにするため
2回目は、テンポをよやくする。

mf (1回目 mp → 2回目 m) というイメージにしたい

次の楽譜のために
をふたして
必ずプレスする。

2回目のmfに合わせる
ために、十拍のはず

1.

17 2.

25

小太鼓

は、しっかりとわかるように4人で演奏する。

最後はしっかりとつなぐ...

音はさがるけど、目録は上

うるさくならないように音量の図通りの音を出す。
メロディをさく(さくさくさくさくさくさくさく)

明るく華やかな 威風堂々

児童の楽譜からの分析

- ・2回目や途中から楽器の数が増える。
(拍を合わせるための工夫)
- ・①パート担当の楽器選び
- ・②~⑤の華やかさ
- ・打楽器の選びと入れる部分

エルガー／長谷部匡俊編曲

♩ = 80

1拍目が合わない時には、リーダーが予備拍の
オーバートに大きく振り上げ、合図を示す。

「華やかな」イメージに似合う楽器を音で確かめながら
修正しながら決めるようアドバイスする。

②~⑤を華やかにするには、どんな工夫が考えられるか
問いかけてみる。

雑な音にならないため

の出し方のイメージになる様に
音量を1拍子や歌やで調整して
から楽器で調整する

⑪ ま ま
⑫ ま ま
⑬ ま ま
⑭ ま ま
⑮ ま ま
⑯ ま ま
⑰ ま ま
⑱ ま ま
⑲ ま ま
⑳ ま ま
㉑ ま ま
㉒ ま ま
㉓ ま ま
㉔ ま ま
㉕ ま ま
㉖ ま ま
㉗ ま ま
㉘ ま ま
㉙ ま ま
㉚ ま ま
㉛ ま ま
㉜ ま ま
㉝ ま ま
㉞ ま ま
㉟ ま ま
㊱ ま ま
㊲ ま ま
㊳ ま ま
㊴ ま ま
㊵ ま ま
㊶ ま ま
㊷ ま ま
㊸ ま ま
㊹ ま ま
㊺ ま ま
㊻ ま ま
㊼ ま ま
㊽ ま ま
㊾ ま ま
㊿ ま ま

※合わせシンバルの演奏法を指導
全身で、乾いた明るい音色を出す

シンバルに音をパトタッチする感じで。

雑な音にならないために
この図の音量をイメージして
楽器(パート毎)に調整させる。

最後に保つ